

コロナショック下の日本経済 現状と将来展望

大正大学地域構想研究所教授
小^こ峰^{みね}隆^{たか}夫^お

- *日本におけるコロナ問題とは何か
- *コロナ不況入りで景気の山が確定
- *需要は戦後最大の落ち込みに
- *消費が減って貯蓄が急増した理由
- *コロナで耐性を発揮した雇用状況
- *今後の景気は方向と水準が乖離
- *内的ショックの対応に苦慮した平成時代
- *消費減税には反対
- *旅行、外食に増税するの一案
- *注目すべき働き方の新展開



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
本日は、大正大学の小峰隆夫先生においていただききました。

よくご存じだと思いますが、小峰さんは1947年のお生まれで、東京大学から経済企画庁に入られ、いわゆる経済白書の担当をされたこともございます。われわれも経済誌の中で様々なエコノミストの方にお付き合いをいただいてまいりましたが、いわゆる官庁エコノミストと呼ばれるような方も大分いなくなってまいりまして、特に内閣府に担当が移されてから、どうもなかなかメディアに登場される方が少なくなっております。また、専門にこういったことをきちんとやられる方もだいぶ人材が不足しているというような感じがいたします。

小峰先生は今年の読売・吉野作造賞を受賞されましたが、そういう意味ではオーソドックスな景気分析、経済動向の分析をされる最後——と言ってはちょっと語弊があるかもしれませんが——の存在になりつつあるのではないかと思います。

コロナ禍でたいへん景気の見通し、経済の動向の見通しが難しい状況でございますが、今日はそういったところをじっくりお話しただけなのではないかと思えます。

それでは小峰先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

日本におけるコロナ問題とは何か

小峰 皆さんこんにちは。ただいまご紹介い